

鳥取砂丘コナン空港
カーボンニュートラル拠点化協議会 第6回会議
議事要旨（概要版）

1. 日 時：令和6年10月8日（火）14:00～15:00

2. 場 所：鳥取空港国際線ターミナルビル 2F 出国待合室

3. 議事概要：

(1) 開会挨拶、前回協議会の内容紹介

- ・事務局から開催挨拶、前回協議会の内容説明を行った。

(2) 会員名簿ならびに出欠

- ・事務局から出席者を紹介した。

(3) 空港脱炭素化推進計画の認定と取組に関する報告

- ・事務局から空港脱炭素化推進計画の認定と取組に関する報告について説明を行った。
- ・2024年7月31日に航空局から推進計画の認定を頂いた。
- ・また、鳥取砂丘コナン空港は全国の推進計画策定主体60空港のうち、6番目（神戸空港と同日）に、地方管理空港としては1番目の認定であった。

(4) 国際線ターミナルビル空港熱源の効率化

- ・鳥取県空港振興室から国際線ターミナルビルの空調熱源の効率化について説明を行った。
- ・熱源の高効率化による省エネ化ならびに、従来の重油焚きから電気式に更新することによる化石燃料から再エネへの転換を両立した熱源更新計画としている。

(5) 航空灯火LED更新に係る設計及び工事

- ・事務局から航空灯火LED更新に係る設計及び工事について説明を行った。

(6) ANAグループでの空港車両脱炭素化に向けた取り組み

- ・全日本空輸からANAグループでの空港車両脱炭素化に向けた取り組みについて説明を行った。
- ・羽田空港で実証後、EV車両について、どのように各地方空港へ展開するかについては現在検討中である。また、EV用の充電スタンドの設置計画についても検討が必要であるため、空港の各事業者との協議の上、計画を進める必要があると考える。

- ・鳥取砂丘コナン空港脱炭素化推進計画では、積雪の他にも強風や波浪、塩害といった地域特性を考慮しなければならないことを盛り込んでいる。日本海特有の地域特性であり、また、飛行機の離発着の隙間時間のない羽田空港とは特性が大きく異なる。空港車両のEV化の実証先として鳥取砂丘コナン空港もぜひ検討いただきたい。

(7) オンサイトでの太陽光発電+蓄電池の導入による空港脱炭素化

- ・中国電力からオンサイトでの太陽光発電+蓄電池の導入による空港脱炭素化について説明を行った。
- ・太陽光発電設備の導入にあたって、滑走路西側の移転元地に100%自家消費が可能なオンサイトPPAでの導入を検討している。
- ・太陽光発電設備の導入にあたって、国の空港脱炭素化推進事業費補助金(空港分野に係る取組関係)の補助金を利用する予定である。

(8) 脱炭素の推進

- ・事務局から脱炭素の推進について説明を行った。
- ・各事業者が協力して積極的に脱炭素化の取組を行うことで、カーボンニュートラル達成が可能となる。鳥取県としてもできる限りの努力はしていく所存である。

以 上